

# はじめに

この世に誕生したときは立つことも話すこともできずただ泣くことしかできない赤ちゃんを、一人前の人間に育て社会に送り出す…子育ては、楽しく、喜びにあふれ、時に悩み、途方に暮れる…その繰り返しの日々の積み重ねであり、やがて子供が自立して巣立っていくまでの長くて壮大な営みです。

平成18年、教育基本法が改正され、その第10条に「家庭教育」が新しく盛り込まれ、子供の教育についての親の責任が明文化されるとともに、行政による家庭教育の支援についても規定されました。

近年、少子化、核家族化、地域の間関係の希薄化、価値観の多様化、育児情報の氾濫など、現在子育て中の親を取り巻く環境はその人の親が子育てをした時代とは変化しています。また、親として育つための学習は必ずしも十分ではなく、赤ちゃんに触れる経験がないまま親になった若い親にとって、子育ての悩みや不安はつきません。しかし、子供を育てながら親も親として育つのです。親としての学びを支援すること。それが家庭教育支援です。

親は、わが子にどのような人間に育ってほしいと願っているのでしょうか。

平成15年に東京都教育庁が行った調査では、「どのような人を目標として成長して欲しいか」という質問に対し、『思いやりのある豊かな心をもった人』79.1%、『自ら進んで学び考えて行動する人』57.0%、『社会の基本的なルールやマナーが守れる人』50.4%という回答でした。(図1)

また、別の調査では、「子供の将来に対する期待」について、『友人を大切にできる人』75.4%、『他人に迷惑をかける人』70.0%、『自分の家族を大切にできる人』70.3%という報告もあります。(ベネッセ教育研究開発センター調査 平成17年)

さらに、国立女性教育会館の調査(平成17年)によると、「子供が15歳になったときどのような子になってほしいか」という質問に対し、「強く期待すること」という回答(複数回答方式)が多かった項目は、「困っている人を助ける」「他人と協調できる」「自分の意見を述べる」で、これらはいずれも約70%の親が望んでいることでした。やはり親は思いやりの気持ちや人間関係、自立や社会性が大切だと思っているのです。

家庭によって、また親によって多少のニュアンスの違いはあるかもしれませんが、このように多くの親は、豊かな心と人間関係を培うことができるように、いずれ社会に出てしっかりと生きていけるように、いわば人間形成の基礎をしっかりと育てたいと思っているのではないのでしょうか。

多くの親が願うような“人としての基礎をしっかりと育てる”家庭教育には、何が大切なのでしょうか。

このことについて、近年、脳科学や医学などの研究成果によってヒトの発達について少しずつ明らかになり、これまでの日本の多くの親が行ってきた子育ての経験に加えて科学的な根拠のある家庭教育の足がかりが示されています。文部科学省は平成16年、昨今の社会問題となっている子供たちの心の問題について医学・脳科学をはじめ

各学問分野の研究成果を活かして科学的な視点から原因究明し適切な対応について検討するために「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」を設置しました。そして子供の情動等に関して科学的に解明するとともに、その成果を集約し、教育等へ応用させていくための諸方策について検討し、平成17年にその報告書を出しました。「豊かな心」は脳の発達と密接な関係をもって育まれることや、とりわけ乳幼児期の発達は人間形成の基礎において重要な時期であることが、少しずつ科学的に解明されています。

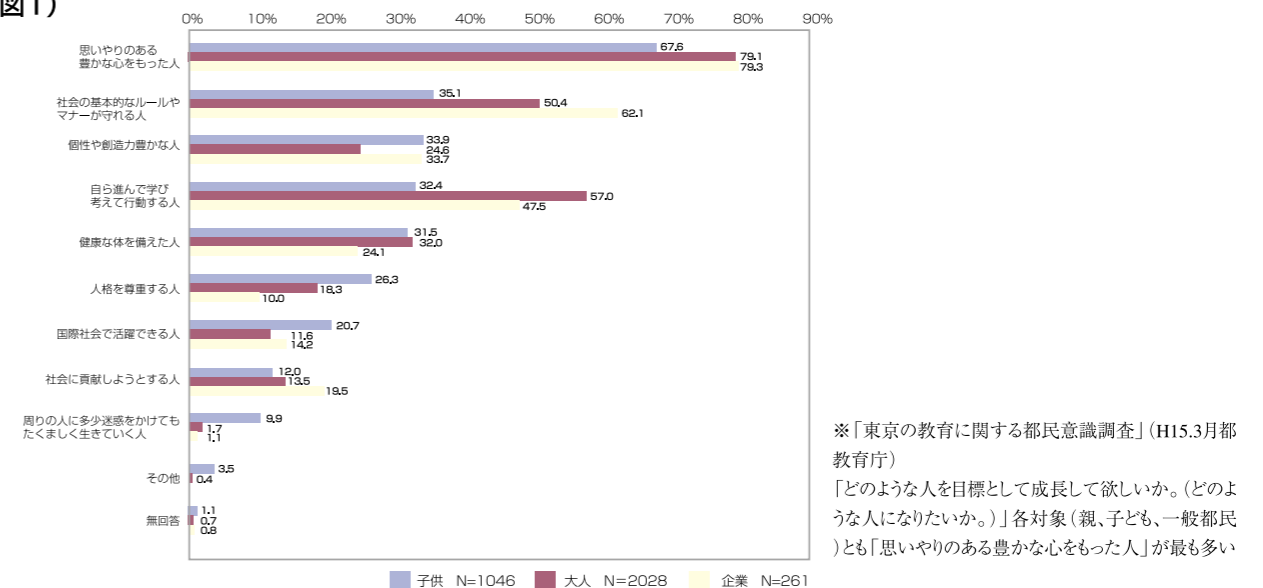
乳幼児期の家庭教育に必要な学びにはいろいろな側面がありますが、この資料では、その一つとして、現時点で明らかになっている乳幼児期の発達についての基礎的・科学的な知識を専門の先生方にご執筆いただき、家庭教育の支援に役立つ資料集としてまとめました。

さらに、日頃から乳幼児とその親と関わりのある幼稚園、保育所、その他教育・福祉施設の職員の方々にご利用いただくことを前提として、乳幼児の保護者の学びにつながる具体的な場面を想定したプログラム例や保護者への指導・支援のポイントも紹介しました。

乳幼児期の子供は自分一人では成長できない存在ですが、この時期は人間形成の基礎を築く大切な時期であり、子供が育つ環境が大切です。次代を担う子供たちの健やかな成長のために、みなさんにこの資料を御活用いただければ幸いです。

東京都教育委員会

図1)



東京都教育委員会は、東京都教育ビジョン(第二次)重点施策事業・「10年後の東京」実行プログラム事業として、平成20年度から「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」を開始、その一環としてこの資料を作成しました。

平成21年秋には、この指導者向けの資料を基礎として、乳幼児の保護者向けの資料・教材を作成する予定です。あわせて御活用ください。

